

宮崎兄弟資料館だより

第16号 2025/3/31

シンガポール・リバーバリーハイスクールの 学生20名が荒尾市を訪問



▲交流相手校・リバーバリーハイスクールの学生が荒尾第三中学校を訪問した際の記念写真

宮崎兄弟資料館とシンガポールとの交流は、荒尾・ シンガポール両地域の青少年の相互交流に！

令和6年11月21日から23日までの3日間、シンガポールのリバーバリーハイスクールの学生20名が荒尾市を訪問。平成26年にはじまった宮崎兄弟資料館とシンガポール孫中山南洋記念館との学術交流から、昨年度の荒尾市の中学生によるシンガポール訪問を経て、青少年交流は相互交流へと発展しました。



▲荒尾海陽中の茶道部によるティーセレモニーでリバーバリー一行を歓迎



▲荒尾第三中での授業体験。ジェスチャーも交えてコミュニケーションをとります



▲夕暮れ時の荒尾干潟を前に感動を共有。

荒尾市
公式メディア
「ぎゃんすき！
あらおちゃん」
で交流の様子を
見れます



1月10日にシェアされた投稿
作成者: ARIMA_CITY

■リバーバリーハイスクール受入交流行程

- 11/21 リバーバリーハイスクール一行荒尾到着
→荒尾海陽中・茶道部によるティーセレ
モニー（市役所）
- 11/22 学校訪問・授業体験（荒尾第三中学校）
夕方 荒尾干潟・水鳥湿地センター見学、
夕日鑑賞
- 11/23 文化体験（日舞・琴）、万田坑見学、生
家施設にて交流会・送別会



▲生家座敷で今回の交流について語り合い、連絡先を交換する子どもたち。滔天と孫文もこんな語らいをしていたのでしょうか。



▲どんな所作でどんな感情を表現するのか、日本の伝統文化・日舞を実体験！



▲リバーバリーハイスクールの学生が琴を、バディの子が合唱で名曲「さくらさくら」を合奏

令和5年夏にシンガポールを訪問してから約一年。今回は荒尾第三中学校での授業体験を中心に、三中の生徒がバディとなっておもてなしをしました。観光地を案内するだけでなく、日本の伝統文化も一緒に体験し、ただの観光ではできない経験にリバーバリーハイスクールの生徒からは大満足の声。令和5年にシンガポールを渡航した学生（今は高校生）も合間で顔を出してくれ、再会を喜んでいました。相互交流の継続についてリバーバリーハイスクールの先生からも意向が伝えられ、とても有意義な時間となりました。

第30回牡丹茶会 お茶とともに日中の伝統音楽の演奏も楽しむ

4月13日、今年も快晴のなか荒尾海陽中学校の茶道部の皆様のご協力を得て牡丹茶会を開催しました。今回から100名分のお茶をご用意し、茶席を設けて運営しましたが、各席の枠もあっという間に埋まるほど、大変多くの方にご来場いただきました。

また、11時から熊本市在住の王怡さんによる二胡の演奏、正午からは荒尾市地域活性化企業人の瀬瀬翼さんによる津軽三味線演奏と、日中の伝統音楽の演奏会も併せて行い、とても華やかな春のイベントとなりました。



▲海陽中茶道部のおもてなしに、参加者の方もゆっくりとしたひと時を過ごしている様子。

清々しい初夏の気候のなか、いけばな展開催

5月11～12日、荒尾華道会会員の皆様の作品が宮崎兄弟の生家施設を彩りました。昨年と打って変わって初日は風が強く、展示作品を室内で見学できるように急きょ変更する場面もありましたが、2日目には天気も回復し、いけばな体験には定員いっぱいのお客様が来訪されました。



▲風が強く、作品が倒れる危険もあったため、生家の土間に急きょ展示替えしました。



▲1日目にお客様の足が遠のいてしまった分、2日目のいけばな体験では華道会の先生の気持ちも一入。

第16回 音と光の祭典in宮崎兄弟生家

9月28日、一小校区元気づくり会ははじめ、地域の方たちのサポートのもと、一小の児童の皆さんによる運営で、今年も快晴のなか音と光の祭典が開催されました。年々、滔天マルシェでの子供たちの運営もスムーズに、そして充実してきており、これまでの経験がしっかりと引き継がれていることを感じる場面も。今年のステージのラストは、牡丹茶会でもおなじみ、王怡さんによる二胡演奏で、多くの方が慣れ親しんだ日本の楽曲から、超絶技巧を織り交ぜた二胡独自の曲までたっぷりの一時間のコンサートに多くの人が聞き入っていました。



(上) 夜の生家を彩る手作りの行灯
(左) 滔天マルシェで活躍する一生の児童たち！
(右) 昼からスタートしたステージにお客さんもいっぱい

第60回 滔天忌俳句大会 60年の歴史に幕

12月4日、荒尾市俳句協会主催で事前投句の表彰と当日句会が開催されました。事前投句138名の一等(天賞)には、菜切川まやさん(荒尾市)の「若人に託す明日や滔天忌」が、当日句(席題「泰」)24名の一等(滔天賞)には、鹿子生憲二さん(大牟田市)の「泰然と風遊ばせて紅葉散る」が選ばれました。小中高生64名の応募も含め、総作品数444句と大変盛況ながら、会員減少と高齢化のため、今回をもって「滔天忌俳句大会」は60年の歴史に幕を閉じることとなりました。この場をお借りして、これまでの荒尾市俳句協会の皆様のご尽力に、心より感謝申し上げます。



▲第60回滔天忌俳句大会当日 記念写真

今年も市内小中学校で「日中友好の朝顔」満開

平成29年度より、荒尾市では「日中友好の朝顔」を育てる取組みを市内の小中学校で実施していただいています。本市の子どもたちに幼いころから「国を超えた友情の歴史」に触れてもらおうというもので、引き続き市内12校に取り組んでもらいましたのでご紹介します。

一小

今年も1年児童の皆さんが種まき、草取りや水やりなど、大切に育ててくれました。生家も見学し、孫文と滔天の友情の歴史の触れてもらいました。5年後の音と光の祭典が楽しみです！



万田小

ボランティア委員会の皆さんがお世話をしてくれました。1年生と一緒に上手に植えてくれました。おかげで、朝顔も綺麗に花を咲かせました。



府本小

平井小

今年も、6年児童の皆さんが理科園で育ててくれました。一昨年は薄紫色、昨年薄い青で花びらの形が違っていたようですが、今年は「日中友好の朝顔」らしい鮮やかなピンクの朝顔が開花！宮崎兄弟の学習の動機付けにもしていただきました。



今年は、3年生の皆さんに種まきを、環境委員会の皆さんに水やりをして育ててもらいました！理科の授業で観察し、グリーンカーテンとしても活用してもらいました。

八幡小



理科の学習教材として、種まき・栽培と先生に育ててもらいました。校舎2階に及ぶほどの高さにまで成長してくれました。



有明小

今年も5年理科の教材として活用してもらいました。7月の種まきの際は、昨年の朝顔



から採取した種子も合わせて播種してもらい、毎日30輪以上の開花があったとのこと！また、花を冷凍保存して1年生の色水遊びにも活用してもらいました。

緑ヶ丘小

飼育栽培委員会がプランターで育て、全校児童に朝顔を紹介する計画を立てていたのですが、酷暑のせいか、生育不良であったとのこと...生家でも種の発育が全体的に悪く、環境の変化は朝顔にも影響を及ぼしているようです。

中央小

今年も理科の学習として、5年生のみなさんに育ててもらいました。また、宮崎兄弟と孫文の歴史についても一緒に勉強してもらいました。年度末には6年生のみなさんが生家を見学してくれました！

今年も、環境飼育委員会のみなさんに、児童玄関横のプランターに植えて育ててもらいました。開花したもの、酷暑のせいか種は取れなかったとのこと、ここでも環境の変化がじわりじわりと...

桜山小



海陽中

今年は環境委員のみなさんに育ててもらい鮮やかなピンクの花が咲きました。丁寧な記録から大切に育ててもらったことが伝わります。



四中

今年も、種まきは生徒会執行部及のみなさんに、水やりは環境委員のみなさんを中心にお世話をしてもらったところ、7月中旬に開花を確認。その後、夏の暑さにも負けずに沢山の朝顔が成長したそうです。

4月中旬に生徒会執行部のみなさんに種まきをし、お世話をしてもらいました。

今年の暑さは長かったせいか、長く朝顔が咲き続けたようで、11月末に種取りまでしてもらいました（生家でも10月上旬まで朝顔が咲いていました）



三中

＊荒尾市宮崎兄弟顕彰基金への寄附のお願い＊

荒尾市では「荒尾市宮崎兄弟顕彰基金」を設置し、宮崎兄弟の生家施設の維持管理や、宮崎兄弟の顕彰事業に活用しています。世界に誇ることができる荒尾の偉人の歴史を次代に継承していくため、寄附にご協力をお願いいたします。



ご協力をお願いします！

みやじゃっきたまぞう

資料紹介⑫

『熊本新聞』第70号
(1876年(明治9年)5月24日)

八郎の投書が掲載された新聞。八郎はその政治活動の一つとして、当時最新のメディアといえる新聞や雑誌を通じ、自らの考えを発信するという活動もしていた。

この資料と同年の1876年2月末、八郎は池松豊記(玉名郡小田村出身)の紹介で、鹿児島出身の西郷派・海老原穆(えびはら ぼく)が社主を務める評論新聞に入社している。『評論新聞』は反政府系言論機関の急先鋒とみなされていた政論誌で、八郎は「此社有志ノ集合ニテ頗ル愉快ナリ」と評していた。八郎は同誌で、「压制政府ノ自滅スルノ説」(57号)、「压制政府転覆スヘキ論」(62号)、「日本政府ノ転覆スルハ将ニ近日ノ内ニアラン」(64号)、「戦争ハ国家ニ大益アルノ説」(91号)、「政府ノ官員ハ『ルソー』ヲ嫌ハルル話」(96号)、「卑屈政府ハ自滅スヘキノ説」(99号)など、次々と政府を批判する記事を書き、99号からは世話人も務めていた。記者活動が一番盛んだった頃の資料と言えよう。



荒尾市日中友好促進会議活動 紹介

「日中友好のつどい2024」を開催
—中国駐福岡総領事の記念講演も—

12月14日(土)、ホテルヴェルデにて、新しく着任された楊慶東中国駐福岡総領事と会員との交流の場として「日中友好のつどい2024」が荒尾市日中友好促進会議主催で開催されました。楊総領事は、「孫文と宮崎兄弟の友情を架橋に、中日戦略互惠関係の構築へ」という演題で、中国における孫文の歴史的評価に触れながら、その中で宮崎滔天をはじめとする宮崎兄弟がどのような貢献をしたか、その友情の深さについて語られました。最後には、文化的資源を掘り起こした事業など、「より多くの人に知ってもらえるよう協同することで、世界の発展に貢献していければ、今後実務的協力関係を深め、友好関係が進展すると願っている」とのメッセージを伝えられました。荒尾市と中国との友情の歴史を再認識する機会となりました。



追悼 猪飼隆明先生

5月14日、荒尾市史編集委員長はじめ、荒尾市の歴史事業に尽力くださった猪飼隆明先生が亡くなりました。猪飼先生は昭和19年のお生まれで福井県のご出身。熊本大学や大阪大学大学院で教授を務められ、定年退職後も大阪大学名誉教授として本の執筆や文献調査など精力的に研究活動をされていました。河内町史、玉東町史、宇土市史など数多くの自治体史の編纂にも関わられ、荒尾市では、以下の事業にご協力いただきました。

荒尾市史講演会



荒尾市史編纂事業（1995～2012）

荒尾市史講演会（2014～2022）

宮崎兄弟研究事業監修（2014～2018）

海達公子生誕100年記念祭（2015）

宮崎兄弟の生家施設開館二十五周年記念講演会（2018）

宮崎兄弟資料館 晩晴園共同報告書監修・共同報告書発刊記念イベント（2019）

荒尾市史編纂事業では編集委員長として17年間にわたってご尽力いただき、おかげさまで資料集含め計13冊の書籍を出版。集大成ともいえる『荒尾市史 通史編』は、2012年に「第34回熊日出版文化賞特別賞」を受賞し、副賞として頂いた10万円を活用して「荒尾市史講演会」を実施することに。ここでも猪飼先生には計9回ご講演いただき、第6回の「三池炭鉱と荒尾・大牟田―地震・災害・争議―」、第7回の「横井小楠の実学と月田蒙斎の実学―宮崎兄弟の思想の基盤―」、そして第9回の「宮崎民蔵の土地復権論」は、近年猪飼先生が書籍として刊行、ないし刊行されるはずで精力的に取り組んであったテーマでもありました。

宮崎兄弟については、特に民蔵の研究に尽力されており、2014年に宮崎家子孫から荒尾市に寄託された史資料の整理においては、猪飼先生のご協力のおかげで、これまで知られていなかった民蔵の直筆原稿を確認し、その子・世民や世龍の活動のあらましを把握することができました（その成果の一部は、2015年に企画展「宮崎世民展」として公開）。そうして今年4月下旬、猪飼先生は宮崎家の子孫と自ら連絡を取り、史料を預かって、亡くなる直前まで病室に持ち込んで研究を続けていらっしやったとのことでした。

6月半ば、子孫の方の史料引取りに猪飼先生宅へ同行させていただいた折、奥様の許可を得て、先生の書斎を探索すると、机の上に資料がまとめられ、周囲にも関連資料が貼り付けられてと、いまだ先生がいらっしやって書斎をちょっと覗かせていただいたような状況でした。中身に間違いが無いのか、子孫の方と封筒の中身を確認していると、先生の手書きのメモが挟まれており先生の民蔵研究に対する熱い気持ちが感じられました。―「いま一つの近代を求めつづけた男 宮崎民蔵」

猪飼先生のこれまでのご尽力に心から謝意を表するとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

市史講演会の後の懇親会にて。

（左より2番目：猪飼先生）お酒が進んでも先生の落ち着いた話しぶりは変わらず、歴史への向き合い方も沢山語っていただきました。



宮崎兄弟の生家スケジュール（令和7年度）

※3月末～4月上旬頃、牡丹開花

牡丹茶会（4月12日（土））

初夏のいけばな展（5月10～11日（土・日））

❀二日目いけばな体験あり〔先着40名〕

※5月末～6月頭 菩提樹開花

※お盆開館（8月12日）

・音と光の祭典（時期未定）

※開花時期については、前後することがございます。詳細については観光文化交流課（☎0968-63-1274）までお問合せください。

※イベント詳細については、宮崎兄弟資料館HP（<https://www.city.arao.lg.jp/kurashi/shisetsu/miyazaki-kyodai/>）をご覧ください。

～次号予告～

次回の「宮崎兄弟資料館・館報」17号は、2026（令和8）年3月に発行予定です。掲載内容についてご意見・ご要望があれば、culture@city.arao.lg.jpへお寄せください。